

eco サポート

(公財)山口県ひとづくり財団
環境学習推進センター情報誌 第38号

Contents

- 01 環境学習講演会レポート
- 02 環境活動団体交流会報告
春の主催講座のお知らせ
- 03 インタビュー「岩国市ミクロ生物館」の魅力
- 04 電池自動車・燃料電池車のご紹介
山口「環境絵日記コンテスト」作品募集
環境活動団体助成事業の募集案内

環境学習講演会を開催しました

山口県セミナーパーク・講堂において、環境学習講演会を開催しました。寒い中たくさんの方にご来場いただき、ありがとうございました。

どうなる暮らしのエネルギー ～電気代、自由化、温暖化～

日時 1月21日(日) 13:30～15:00

講師 竹内純子氏 [国際環境経済研究所理事・主席研究員
21世紀政策研究所研究副主幹
筑波大学客員教授]



講演の概要は次のとおりで、参加者の多くから、理解しやすく知識・教養として役に立ったという評価をいただきました。

- ・エネルギー政策は安全供給・安全保障、経済性、環境、そして安心・安全、これらのバランスが重要で、しかも実現するためには数十年単位の長い期間が必要である。

日本のエネルギーの自給率は現状8%程度である。石油や天然ガスの中東への依存度が非常に高く、タンカーが通過するホルムズ海峡に紛争が発生すれば、日本は大きな影響を受ける。

- ・電気代の上昇は低所得生活者や高齢世帯にとって大きな影響を与える。

- ・電力の自由化は諸外国の例を見ると、当初低下するが、その後上昇に転じ、必ずしも期待した効果は挙げられていない。

- ・地球温暖化対策を進めようという国際的な機運は高まっており、その枠組みとして、パリ協定が採択されている。

- ・日本は今何を考えるべきか。短期的には電力料金の抑制、長期的には縮小社会に向けたインフラ整備のあり方、革新的技術開発への努力等が求められている。

小さい命を撮る

日時 2月25日(日) 13:30～15:00

講師 栗林 慧氏 (生物生態写真家)

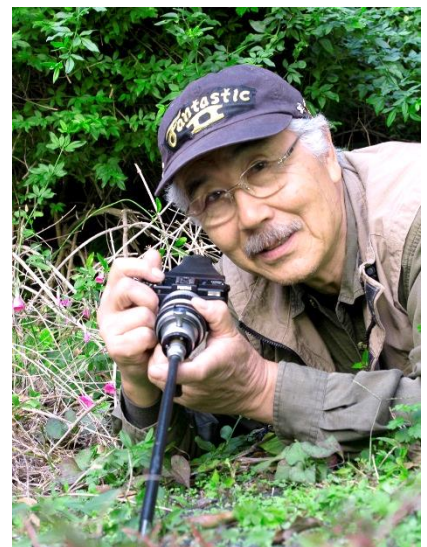
栗林先生は、主に小さな昆虫を中心に撮影してこられました。その中から、約50作品をスクリーンに映し出し、撮影の技術や苦労についてお話いただきました。

先生は昆虫が嫌いな方でも命の優しさ、可愛らしさ、美しさを感じてもらえることを考え、撮影機器に独自の工夫を加えることで、多くの人に感動を与える唯一無二の作品を発表されてこられました。バッタが飛び上がる瞬間を写すことは人間の反射神経では不可能です。そこで、センサーを用いて昆虫にシャッターを切らせることで可能にし、動きを止めるためスト

ロボも併用しました。

次に、医療用ファイバースコープに着目しました。円形に写ってしまうスコープの映像を、レンズを改良することによって四角い通常の映像が取れるようにし、巣の中のハチなど、通常のカメラでは撮影不可能な狭い空間にいる小さい昆虫の撮影を行われました。

さらに、昆虫の接写を行うと、ぼけてしまう背景をきれいに撮ることはできないかと20年にわたり試行錯誤を繰り返した結果、それを可能にするレンズを作り上げられました。



講演終了後にサイン会が設けられましたが、先生のファンが長い行列を作っていました。

環境活動団体等交流会を開催しました

2月4日(日) 13:00~16:45
山口県セミナーパーク 大研修室

環境保全活動等に取り組んでいる団体等が、活動状況や課題等について情報の共有や意見交換を行うことで相互理解を深め、各団体等が連携・協働し今後の活動等を一層推進していくことを目的として毎年開催しています。今年には17の活動団体や山口県希少野生動植物種保護支援員、行政関係者に加えて8名の個人参加者にもお集まりいただき、基調講演や、活動団体代表の活動事例発表を行いました。

基調講演「里山の宝物・オオサンショウウオ」

謎の多い特別天然記念物・オオサンショウウオの飼育下繁殖に世界で初めて成功した貴重なご研究や、堰堤が絶滅の現場になっている厳しい現状の奇跡的な改善に成功した貴重なお取組、さらには保全活動に地域住民と連携することで地域を活性化し様々な地域活動へと発展された貴重なご実績等、興味深く、わかりやすくお話をいただきました。オオサンショウウオと人とが共存するためには、「知ること」と「譲ること」がキーワードであること。環境保全活動で大切なことは、「調査によりオリジナルな発信力をもつこと」と「地域とともに楽しくやること」である等、多くの貴重なご示唆をいただき、参加者からも高評価をいただける基調講演になりました。



講師 桑原一司氏
日本オオサンショウウオの会 会長
元広島市安佐動物公園 副園長

環境活動団体による事例発表

「錦川のオオサンショウウオの保護活動について」

錦川流域ネット交流会

白井 啓二 氏

「島田川の流域を結ぶ」

島田川の豊かな流域づくり連絡会議

藪 博昭 氏

「江舟岳のホンシャクナゲ群生地の整備(その後)・その他」

北浦自然観察会

永井 要明 氏



意見交換会

意見交換会

「メンバーの高齢化は進むが、若い人の入会が滞っている実状があり、後継者不足が重い課題となりつつある」という発言が続き、活発な意見交換の中心テーマとなった。改善策としては、「仕事との両立に配慮した活動内容にする」「若い人に責任ある立場を任せていく、活躍できる場を提供していく」「子どもや高校生を対象とした講座を開催することで、親を巻き込んでいく」等の発言も続き、有意義な意見交換会となりました。

春の主催講座のお知らせ

今年も多くの環境学習講座を開催します。春の自然に触れ合える毎年人気の二つの講座のご紹介です。

竜王山の自然観察会

締切 4月9日(月)

2018年 4月22日(日) 9:30~15:30

場所：きらら交流館・竜王山周辺
(山陽小野田市焼野海岸)



山陽小野田市・竜王山公園の自然保護、保全にご尽力されている本山会から嶋田紀和氏、柴田満幸氏、松永聡氏を講師としてお迎えし、山野草の魅力や竜王山の豊かな自然環境について説明していただきます。

秋吉台の植物観察

締切 4月27日(金)

2018年 5月13日(日) 10:00~15:00

場所：秋吉台真名ヶ岳周辺
(美祢市美東町赤)



秋吉台地域エコツーリズム協会所属の自然解説者の方々に植物や自然について講義していただきながら、秋吉台を散策します。

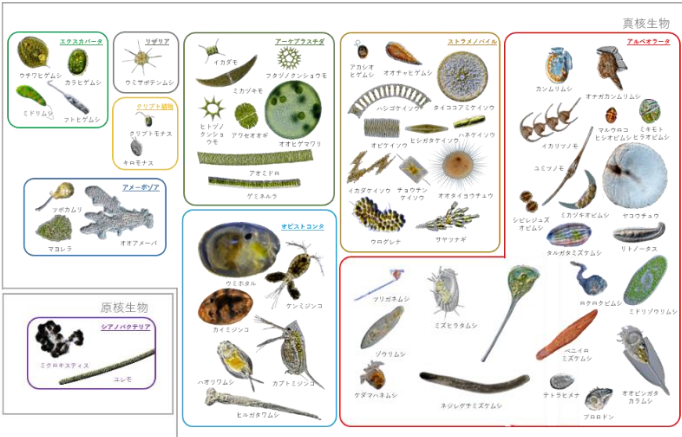
岩国市ミクロ生物館の魅力



微小生物の世界は果てしなく広い

当館はその名の通り、顕微鏡下でみられる微小生物が主役の科学館です。微小生物という地味なイメージが先行するかもしれませんが、その実態は地球上のありとあらゆる環境に生息するメジャーな存在です。一度でも顕微鏡を使ってその世界を体感すれば、地味な印象は払拭されることでしょう。近年の研究により、多様性の面でも肉眼サイズの生物達を凌駕することが明らかになりつつあります。

微小生物の広大な世界
※細胞や個体の大きさは実際と異なる



上の図は、身近な微小生物を2012年のAdlらによる分類体系に基づき仲間分けしたのですが、教科書などで登場するミドリムシ、ミカヅキモ、ゾウリムシ、ミジンコ、アメーバが全て別のグループに属していることがわかります。いっぽうで、私たちヒトやイヌ、カラス、マグロなどの脊椎動物や、タコ、ダンゴムシ、トンボ、クダモノなど無脊椎動物はというと、全て「オピストコンタ」と呼ばれる一群に属しますし、陸上でみられる植物も全て「アーケブラスチダ」に属します。つまり、私たちの植物も全て「アーケブラスチダ」に属します。つまり、私たちの植物も全て「アーケブラスチダ」に属します。つまり、私たちの植物も全て「アーケブラスチダ」に属します。

岩国市ミクロ生物館 イベント情報

つつのなかに広がる瀬戸内海！

春の海のミクロ生物を捕まえてスランクトン万華鏡を作ろう
5月5日(土)、6日(日) 各13:00~16:00 協力：碧南海浜水族

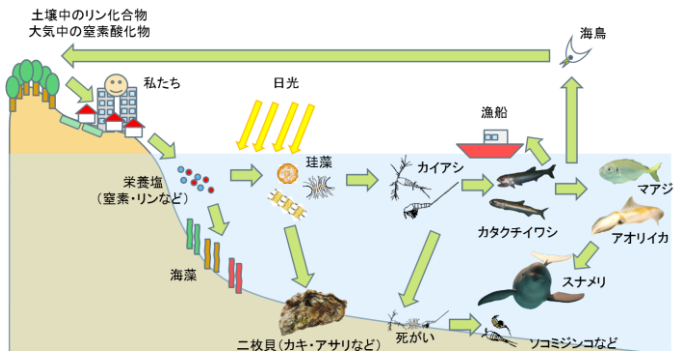
海のミクロ生物採集観察体験

土・日・祝日を中心に随時受付(希望日の2週間前までに要予約)
瀬戸内海でみられるプランクトンの調査体験が楽しめるプログラム。所要時間は約2時間。1人あたり150円で体験できます。自由研究にも最適です。

青少年サイエンスセミナー2018秋
9月下旬(予定)

世界有数の豊かさを誇る瀬戸内海。その一角にある「潮風公園みなとオアシスゆう」は、単なる海水浴場ではありません。国内初の微小生物展示・学習施設である「岩国市ミクロ生物館(以下、当館)」を併設し、レジャーから環境学習、さらには自由研究まで楽しめる施設なのです。今回は、岩国市ミクロ生物館が扱う微小生物が秘める魅力についてご紹介していただきました。

微小生物は縁の下で力持ち



「瀬戸内海を漂う」(福屋社発行2007年・福屋社博士の図・文をもとに作成)

微小生物は私たちの暮らしにも深く関与しています。例えば食卓に並ぶ魚介類や牛肉。魚介類のエサのエサ、ウシが食べる草の分解は、いずれも微小生物がその役割を担っています。私たちがおいしいご飯を毎日口にできるのも、微小生物のおかげなのです。

それだけではありません。例えば写真のツリガネムシ。浄化槽や川のほとりなどで多くみられ、生活排水などに含まれる有機物などを積極的に捕食しては大きな塊にして、水質改善に一役買っています。

一方で、ときに私たちに牙を剥くこともあります。栄養塩を含む排水の過剰流入などさまざまな要素が引き金となり、赤潮や貝毒などの発生によって魚介類や私たちの命を脅かしてしまうこともあるのです。



ヤコウチュウによる赤潮

自然と科学を愛する少年少女を育成する

扱う生物に負けず劣らず「微小」な規模を誇る当館ですが、海、川、山に恵まれた岩国は自然そのものが「天然の培養室」。今回ご紹介した以外にも多様な魅力を秘める微小生物を活用し、科学にも環境にも一切興味を持たない子供達を研究者顔負けの理系少年少女に育成するための活動を、イベントから教材開発まで幅広く展開しています。



日本の海産
スランクトン図鑑

アクセス

JR山陽本線宇駅下車後、
いわくにバス「潮風公園」行き乗車、
終点下車徒歩1分

山陽自動車道 福岡方面より 玖珂ICから車で約30分、
広島方面より 岩国ICから車で約30分

開館時間

9:30~16:30 (入館料無料)

休館日

毎週火曜日(祝祭日の場合は翌日)
年末年始(12月29日から1月3日まで)

740-1488 岩国市由宇町潮風公園みなとオアシスゆう 交流館内
TEL 0827-62-0160

E-mail: micro@shiokaze-kouen.net
ウェブページ <http://micro.shiokaze-kouen.net>

次世代電気自動車の紹介

国内自動車メーカーが開発したゼロ・エミッション車で、電気自動車(EV)、燃料電池自動車(FCV)です。実際に市販され、公道での走行が可能です。



日産e-NV200



マツダ デミオEV



トヨタMIRAI



一人乗りEV
(トヨタ車体コムス)

山口「環境絵日記」コンテスト作品募集

子どもたち家族や学校、地域の人たちと一緒に環境について考え、調べ、行動した内容を絵と文章を組み合わせた「環境絵日記」の作品を募集します。



応募資格 県内の小学生

応募方法 ・家庭や学校、地域などで環境について考え、調べ、行動した内容を絵と文章の組み合わせで自由に絵日記として作成してください。

・応募用紙に応募者の氏名、学年学校等必要な事項を記入し、専用用紙にて作成した環境絵日記と一緒に環境学習推進センターに提出してください。

※詳細はホームページ又は学校等に送付するチラシ等でご確認ください。

環境活動団体助成事業の募集案内

環境活動団体が実施する自然環境保全等の活動や自然とのふれあい事業に必要な経費の一部を助成します。

助成対象となる事業の内容

次のいずれかに掲げるものであって、特定のフィールドで将来にわたり継続的に行われるものを対象とします。

- (1) 野生動植物の保全等
- (2) 自然環境の保全・再生
- (3) 自然とのふれあい事業

※詳細はホームページ等をご覧ください。

※助成事業に応募する団体は、平成30年5月15日(火)までに申請書を環境学習推進センターに提出してください。

環境活動団体の皆様へ

団体活動の開催時期や場所、内容等が決まりましたら、当センターにご連絡下さい。ホームページやメールマガジンで開催案内をさせていただきます。

また、共催講座や出前講座を活用した団体活動への助成も行っています。お気軽にご相談ください。

編集後記

2月中旬、錦節分草自生地特別公開実行委員会主催の節分草自生地見学会に行きました。

節分草(セツブンソウ)は、2009年に錦町でも発見され、以後、地元の古市節分草保存会によって保護されています。

毎年この美しく可憐な花が見られるのは、里山の整備など、保存活動に関わる多くの方々の並ならぬご尽力があったことだと感じました。

来年の節分草自生地見学会にぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。豊かな自然を望む錦川清流線の旅もおすすめです。Edited by K.Hayashi

発行元

(公財)山口県ひとづくり財団

県民学習部 環境学習推進センター



〒754-0893 山口市秋穂二島1062 (山口県セミナーパーク内)

TEL 083-987-1110 FAX 083-987-1720

E-mail kankyo.c@hito21.jp

URL <http://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/learning/>